

富山国際大学全体と現代社会学部・子ども育成学部のディプロマポリシー（DP）・カリキュラムポリシー（CP）・アドミッションポリシー（AP） 対照表

	富山国際大学全体	現代社会学部	子ども育成学部
ディプロマ・ポリシー（DP）	<p>富山国際大学（以下、「本学」という）は、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを、基本理念に掲げている。</p> <p>このような基本理念を踏まえて、所属学部の教育課程所定の単位を修得したうえで、以下のような資質・能力を身につけることを目標とする。</p> <p>各学部の卒業認定・学位授与の方針は、この全学の方針を踏まえて定める。</p> <p>●人間性の向上（DP1）</p> <p>共存・共生の精神のもと時代の潮流に対応できるよう、人間として必要な知識や教養、思考力・表現力、倫理観を身につける。</p> <p>●専門性の向上（DP2）</p> <p>各学部のそれぞれの教育目標に基づき、講義、演習、実習を通して、専門分野に関わる基本的知識・技能や知的学識を習得し、専門的素養を身につける。</p> <p>●社会性の向上（DP3）</p> <p>大学内外での学修を通じて、人々と協力して課題などを解決できる、社会性を持ち自立した人間になったと実感できる力を身につける。</p>	<p>現代社会学部では「21世紀を支える、国際的センスを持つとともに地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成すること」を、理念・目標に掲げる。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定する。</p> <p>1. 人間性の向上（DP1）</p> <p>国際化・情報化が進む現代社会に必要な教養や基礎的能力を身につけ、自分の力で考えて行動することができる。</p> <p>2. 専門性の向上（DP2）</p> <p>2-1. 国際人としての能力（DP2-1）</p> <p>外国語の学習や国内外におけるフィールドワーク・ボランティア活動・留学等で語学力や国際感覚を高め、その能力を国内外の交流で発揮することができる。</p> <p>2-2. スペシャリストとしての能力（DP2-2）</p> <p>観光・環境デザイン・経営情報の各専攻で修得した専門的知識や技能・資格を活用し、国際社会や地域社会の様々な現代的課題の解決に自分から進んで取り組むことができる。</p> <p>3. 社会性の向上（DP3）</p> <p>地域社会や企業等の発展に貢献するために、他の人々と協調しながら目標の実現に向けて自分から進んで行動することができる。</p>	<p>子ども育成学部では、「次代を担う心身ともに健やかな子どもの育成を通して、地域社会の発展に貢献できる教育・保育・福祉の人材を養成すること」を、理念・目標に掲げる。このような理念・目標を踏まえて、所定の単位を修得し、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に、卒業を認定する。</p> <p>1. 人間性の向上（DP1）</p> <p>現代社会を生きる主体的な生活者として、また子ども育成を担う専門的職業人として必要な幅広い知識と教養を身につけている。</p> <p>2. 専門性の向上（DP2）</p> <p>2-1. 教育・保育・福祉の専門職としての資質・能力（DP2-1）</p> <p>子どもの生活・発達の連続性と家庭・地域・社会環境との関係性について理解し、子ども育成の理念と専門的知識・技術、実践力を身につけている。</p> <p>2-2. 地域に生きる専門職としての資質・能力（DP2-2）</p> <p>地域の特色ある教育・保育・福祉の実践に学び、地域に愛着と誇りを持ち、地域に根づいた教育・保育・福祉の実践力を身につけている。</p> <p>3. 社会性の向上（DP3）</p> <p>国や地域を越えた広い視野、人間信頼と共同連帯の精神を持ち、生涯にわたって自己を高める努力を続けようとする意欲と態度を身につけている。</p>
カリキュラム・ポリシー（CP）	<p>卒業認定・学位授与の方針に基づき、教養科目、専門科目を体系的に編成して、講義、演習、実習科目等を適切に配置し、効果的な授業の実施を図る。</p> <p>(1) 教養科目に、「共存・共生へのアプローチ科目群」、「時代の潮流へのアプローチ科目群」、及び「教養演習科目群」を設ける。</p> <p>(2) 各学部の専門科目を、学部や専攻の専門分野の修得に適した科目群に分け、体系的に授業科目を配置する。</p> <p>(3) 社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教養科目の中に「キャリア科目群」を設ける。また、重点的に育成する全学共通の基礎的・汎用的能力として、コミュニケーション能力、協働力、課題解決力を設定し、これらの能力の向上を図るため、各授業科目でどの能力を伸ばすかをシラバスで明示する。</p> <p>各学部の教育課程編成・実施の方針は、この全学の教育課程編成・実施の方針及び各学部の卒業認定・学位授与の方針に基づき、定めることとし、各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。</p> <p>授業の実施にあたっては、対話型授業、演習・反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習等、多様な教育方法による効果的学びを採り入れることとし、各授業科目でどのような教育方法を採用するかをシラバスで明示する。</p>	<p>1. 教育内容</p> <p>現代社会学部の教育課程編成・実施の方針は、在学中に基礎的・専門的な能力の向上を図るため教育課程を教養教育と専門教育により構成し、各教育課程には教育目標を達成するための科目を設定する。各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかはシラバスで明示する。</p> <p>(1) 現代社会の諸問題に関して共存・共生の立場から理解を深める「共存・共生へのアプローチ科目群」を置く。</p> <p>(2) 国際化に対応できる外国語の知識や技能を身につけるための「外国語科目群」を置く。</p> <p>(3) 情報化に対応できる情報処理などの知識や技能を身につけるための「情報化対応科目群」を置く。</p> <p>(4) 就職に必要なコミュニケーション能力ならびに社会で活躍できる能力を身につけるための科目として、「キャリア科目群」を置く。</p> <p>(5) 観光・環境デザイン・経営情報の各専攻科目の履修に先がけて、地域問題や国際問題に関する基礎的知識を身につけるため、1～2年次に学科共通科目として「地域づくり科目群」「国際交流科目群」を置く。</p> <p>(6) 各専攻に開講する科目のうち課題解決能力と実践力を育成するための科目として専門演習科目を置き、特に専攻の総合的能力を高める「専攻実習」「専門演習Ⅰa、Ⅰb」「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」を必修と</p>	<p>1. 教育内容</p> <p>子ども育成学部の教育課程編成・実施の方針は、在学中に子ども育成に関する基礎的・専門的な能力の向上を図るため、教育課程を教養教育と専門教育により構成し、各教育課程には、教育目標を達成するための科目を設定している。各授業科目が卒業認定・学位授与の方針に定められたどの能力・素養の向上に寄与するかをシラバスで明示する。</p> <p>1-1. 教養科目「子ども育成の教養」科目区分</p> <p>(1) 人間理解と社会理解を深め、現代社会における人間のあり方について考える「共存・共生へのアプローチ科目」授業科目群を置く。具体的には、「人間理解科目」、「社会理解科目」を置く。</p> <p>(2) 現代の巨大潮流を理解し、変化する現代社会を生きる人間のあり方について考えるための「時代の潮流へのアプローチ」授業科目群を置く。具体的には、「国際化対応科目」、「情報化対応科目」、「環境との共生対応科目」、「少子高齢化対応科目」を置く。</p> <p>(3) 子ども育成の専門職業人への目的意識を高め、キャリアの実現をめざすための科目として、「キャリア形成」授業科目群を置く。</p> <p>(4) 生活文化と地域活動体験、主体的探究的活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の基礎を培うための科目として、「演習」授業科目群を置く。</p> <p>1-2. 専門科目</p>

		<p>する。</p> <p>(7) 各専攻の専門分野で活躍できる能力を身につけるため、各専攻の教育目標に応じて「専攻科目」を置く。特に各分野に欠かせない能力を身につけるための科目は必修とする。</p> <p>(8) 専攻分野だけでなく、関連分野における幅広い知識も身につけるため、各学生が選んだ専攻以外の専攻科目も、「概論」をはじめとする一部の科目を必修とする。</p> <p>(9) 国際社会で活躍できる、外国語コミュニケーション能力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム）を置く。</p> <p>(10) 地域社会で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（地域創生人材育成プログラム）を置く。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>現代社会学部では、各授業科目において、確実な理解を図り学習成果を上げるための教育方法として、一般的な知識教授型の授業方法以外に、以下の5つの中で各授業科目において可能な方法を積極的に実践する。</p> <p>(1) 対話型授業 教員が学生に一方的に講義するのではなく、学生も参加し、学生と教員が双方向的に対話や問答をしながら、理解を深める。</p> <p>(2) 演習・反復型授業 演習課題、具体的な事例についての考察、重要な事項について反復学習をすることにより、確実な理解を図る。</p> <p>(3) グループ学習 学生同士が複数のグループに分かれ、設定した課題についてグループの構成員が共同で解決に当たる。</p> <p>(4) 地域フィールドワーク 地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、理解を深める。</p> <p>(5) 授業外学習指導や自主学習 授業外で教員が個別に学習指導したり、学習課題や調査課題などを与え、学生の自主的な学習を促す。</p>	<p>1-2-1. 「子ども育成の理論と実践」科目区分</p> <p>(1) 子どもの生活・発達・教育に関する理論を学び、専門知識を身につけるための科目として、「子ども育成の理論」授業科目群を置く。</p> <p>(2) 子ども育成の内容・方法・技術を学び、実践の基礎的能力を身につけるための科目として、「子ども育成の内容・方法」授業科目群を置く。</p> <p>(3) 子ども育成の実地での体験を通して、実践的能力を身につけるための科目として、「子ども育成の実習」授業科目群を置く。</p> <p>1-2-2. 「子どもの発達と相談支援」科目区分</p> <p>(4) 子どもの心身の発達や社会環境に関する理解を深めるための科目として、「子どもの発達と環境」授業科目群を置く。</p> <p>(5) 子ども理解を深め、相談・支援に関する知識・技術を身につけるための科目として、「子ども育成の相談・援助」授業科目群を置く。</p> <p>(6) 子どもと家庭の福祉、地域社会に関する理解を深めるための科目として、「子どもと家庭・地域の自立支援」授業科目群を置く。</p> <p>1-2-3. 「富山の子ども育成」科目区分</p> <p>(7) 地元富山の特色ある教育・保育・福祉活動への参加体験を通して、地域の実践に学び、子ども育成における地域連携の重要性について理解するための科目として、「富山の子ども育成科目群」を置く。</p> <p>1-2-4. 「子ども育成の研究」科目区分</p> <p>(8) 4年間の学びの集大成として、レポートの作成や発表を行うことを通して、生涯につながる自己研鑽と研究的態度を養うための科目として、「子ども育成の研究」授業科目群を置く。</p> <p>1-2-5. 副専攻プログラム</p> <p>(9) 国際社会で活躍できる、外国語コミュニケーション能力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム）を置く。</p> <p>(10) 地域社会で活躍できるリーダーとなり得る、課題解決力と実践能力のある人材を育成するために、副専攻プログラム（地域創生人材育成プログラム）を置く。</p> <p>2. 教育方法（授業方法）</p> <p>子ども育成学部では、各授業科目において、確実な理解と学習成果を上げるための教育方法として、一般的な知識教授型の授業方法以外に、以下の5つの中で各授業科目において可能な方法を積極的に実践する。</p> <p>(1) 対話型授業 教員が学生に一方的に講義するのではなく、学生も参加し、学生と教員が双方向的に対話や問答をしながら、理解を深める。</p> <p>(2) 演習・反復型授業 演習課題、具体的な事例についての考察、重要な事項について反復学習をすることにより、確実な理解を図る。</p> <p>(3) グループ学習 学生同士が複数のグループに分かれ、設定した課題について、グループの構成員が共同で解決に当たる。</p> <p>(4) 地域フィールドワーク 地域の教育・保育・福祉施設等の現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、理解を深める。</p> <p>(5) 授業外学習指導や自主学習 授業外で教員が個別に学習指導したり、学習課題や調査課題などを与え、学生の自主的な学習を促す。</p>
--	--	---	--

		<p>3. 教育評価</p> <p>(1) 個々の授業科目の成績評価にもとづいて、学生が各科目で設定された到達目標の達成度を評価する。</p> <p>(2) 各授業で実施される授業評価アンケートを通じて、教員が学生の授業理解度や満足度、授業目標の達成度を評価する。</p> <p>(3) 標準化された指標に基づいたテスト等によって、学生が自身の成長変化を評価する。</p> <p>(4) 教養演習等におけるグループ発表や個人研究のレポート等の成果物の作成や発表を通じて、現代社会を生きるための基礎的な知識・技術の習得状況を評価する。</p> <p>(5) 4年間の学修成果である卒業研究によって、専門性の達成度を評価する。</p> <p>(6) 卒業直前のオリエンテーション時の学生アンケートを利用した振り返りを通じて、学生自身が4年間における自分の成長を総合的に評価する。</p>	<p>3. 教育評価</p> <p>(1) 個々の授業科目の成績評価にもとづいて、学生自身が各科目で設定された到達目標の達成度を評価する。</p> <p>(2) 各授業で実施される授業評価アンケートを通じて、教員が学生の授業理解や満足度、授業目標の達成度を評価する。</p> <p>(3) 標準化された指標に基づいたテスト等によって、学生が自身の成長変化を評価する。</p> <p>(4) 教養演習等におけるグループ発表や個人研究のレポート等の成果物の作成や発表を通じて、現代社会を生きるための基礎的な知識・技術の習得状況を評価する。</p> <p>(5) 4年間の学修成果である卒業研究によって、専門性の達成度を評価する。</p> <p>(6) 各分野の「履修カルテ」を利用した振り返りを通じて、学生自身が自分の成長のプロセスを評価する。</p> <p>(7) 卒業直前オリエンテーション時の学生アンケートを利用した振り返りを通じて、学生自身が4年間における自分の成長を総合的に評価する。</p>
<p>アドミッション・ポリシー (AP)</p>	<p>○富山国際大学の教育理念・目標</p> <p>富山国際大学では、「共存・共生の精神と知性を磨き、健全にして個性豊かな人格を形成することを基本的な教育理念として、国際化、情報化、少子高齢化、環境との共生の時代において、国際社会及び地域社会の発展に貢献できる人間を育成する」ことを教育目標としています。</p> <p>このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。</p> <p>○求める人物像</p> <p>①大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を有し、学ぶ意欲および目的意識を持つ人</p> <p>②知性、教養を身に付け、個性豊かな人間をめざし、自己を高める努力をする人</p> <p>③国際社会や地域社会の発展に貢献できるよう、専門的・実践的な知識や技術の取得に意欲を持つ人</p> <p>○入学者選抜の基本方針</p> <p>推薦・A0・一般・センター試験利用型・社会人・外国人入試等の多様な入試方法を通じ、求める学生像に沿った入学生を迎え入れるために、筆記試験・調査書・面接・小論文等により、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜を行います。</p>	<p>○現代社会学部の教育目的</p> <p>これからの21世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材、現代社会が抱えている問題を自ら発見・解決し、未来の創造に積極的に参加しようとする人材の育成を目的としています。</p> <p>このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。</p> <p>○学部が求める人物像</p> <p>①人と環境に配慮した観光政策・観光産業による地域社会の持続的発展に、高い関心を持つ人。</p> <p>②環境に対する専門的知識と行動力を養い、地域や企業で豊かな環境を創造することに、高い関心を持つ人。</p> <p>③地域社会や組織の持続的発展のために、情報通信技術を活用し企業等の経営を創造・革新することに、高い関心を持つ人。</p> <p>○入学者選抜の基本方針</p> <p>現代社会学部の求める学生像に合致し、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」に留意しつつ、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する以下の入学者選抜を行います。</p> <p>(1) 一般入試 (前期) 個別学力検査の成績と調査書の内容を総合して評価</p> <p>(2) 一般入試 (後期) 個別学力検査の成績と面接、調査書の内容を総合して評価</p> <p>(3) 特別奨学生選抜入試 (前期・後期) 個別学力検査の成績と面接、調査書の内容を総合して評価</p> <p>(4) 大学入試センター試験利用型入試 (前期・中期・後期) 大学入試センター試験の成績 (2教科2科目と外国語 (英語)) と調査書の内容を総合して評価</p> <p>(5) 推薦入試 (I期・II期) 小論文、面接、調査書、志望理由書、活動実績書の内容を総合して評価</p>	<p>○子ども育成学部の教育目的</p> <p>教育と福祉のハイブリッドの視点に立ち、確かな資質能力と学びの精神をもって教育・保育・福祉の専門職として、心身ともに健やかな子どもの育成を通して、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目的としています。</p> <p>このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。</p> <p>○学部が求める人物像</p> <p>①子どもの生活と遊び、発達と学習に高い関心を持ち、生きる力を育てる教育・保育・福祉の専門家をめざす人。</p> <p>②心身ともに健やかな子どもを育てる家庭や地域づくりに、高い関心を持つ人。</p> <p>③地域に愛着と誇りを持ち、地域の教育・保育・福祉の実践活動に、高い関心を持つ人。</p> <p>○入学者選抜の基本方針</p> <p>子ども育成学部の求める学生像に合致し、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」に留意しつつ、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する以下の入学者選抜を行います。</p> <p>(1) 一般入試 (前期) 個別学力検査の成績と調査書の内容を総合して評価</p> <p>(2) 一般入試 (後期) 個別学力検査の成績と面接、調査書の内容を総合して評価</p> <p>(3) 特別奨学生選抜入試 (前期・後期) 個別学力検査の成績と面接、調査書の内容を総合して評価</p> <p>(4) 大学入試センター試験利用型入試 (前期・中期・後期) 大学入試センター試験の成績 (2教科2科目と外国語 (英語)) と調査書の内容を総合して評価</p> <p>(5) 推薦入試 小論文、面接、調査書、志望理由書、活動実績書の内容を総合して評価</p>

		<p>(6) A0 入試 小論文、面談、調査書、エントリーカード（志望理由他）、活動実績書の内容を総合して評価</p> <p>(7) 特別入試（社会人、帰国子女、外国人留学生）（Ⅰ期・Ⅱ期） 小論文、面接、志望理由書、活動実績書の内容を総合して評価</p> <p>○入学までに身につけて欲しいこと 現代社会学部では、社会で生起している様々な問題を理解し、その解決策を探るための前提となる幅広い分野の基礎知識、具体的には高等学校の各教科・科目の教科書レベルの知識を習得していることを求めています。 また、その知識を使って実際に行動する主体性や、他者と協力しながら行動する協調性を培っておくことが望ましいので、クラブ活動やボランティア活動などを通じて、幅広い経験を積んでおいてください。</p>	<p>(6) 特別入試（社会人） 小論文、面接、志望理由書、活動実績書の内容を総合して評価</p> <p>○入学までに身につけて欲しいこと 子ども育成学部では、小学校教員はもとより、幼児教育・保育、子ども福祉など、子ども育成に関わる専門家の養成にあたり、幅広い教養と基礎学力等を身につけていることを求めています。 また、教育・保育・福祉の専門家についての関心と意欲、知的好奇心や行動力、他者とのコミュニケーション能力を培っておくことも望まれるため、部活動やボランティア等に積極的に参加することを通して、幅広い経験を積んでおいてください。</p>
--	--	---	--